

大豆緊急情報

令和2年(2020年)7月29日
滋賀県東近江農業農村振興事務所農産普及課
(東近江農業普及指導センター)

今年は、梅雨入り後、断続的な降雨の影響により大豆の播種作業が大幅に遅れています。
今後の播種については、下記の点に留意してください。

1 播種量を多くします。

播種時期が遅れた場合、生育不足で減収します。生育不足を栽植密度で補うために、播種時期が遅くなるほど播種量を増やし(1~2割程度)、株間を狭くし株数・本数の確保を行いましょう。

播種時期	栽植密度	播種量	播種密度
適期の場合	10,000~15,000本	4kg~5kg	条間60~75cm、株間10~20cm
遅れた場合	15,000~18,000本	5kg~6kg	
	(狭畦密播の場合、 25,000~30,000本)	(8~10kg)	(条間30~45cm、株間10~20cm)

2 播種深度

播種深度は3cmを基本とします。播種前後に雨が予測される場合はやや浅め、晴天が続くと予測される場合はやや深く(5~6cm程度)しましょう。

3 施肥で生育確保

基肥	追肥
窒素成分で10a当たり2~3kg (出芽後の初期生育を確保)	窒素成分で10a当たり2~4kg (開花期以降の窒素吸収量が多くなるため、増収効果は高い)

4 排水対策と種子消毒で出芽と初期生育を良くする

播種時期が遅れると生育量が少なく、湿害を受けるとさらに生育が不良になります。
排水対策による湿害回避とともに、種子消毒(クルーザーMAXX)を行い、出芽数と初期生育の確保に努めましょう。